地域住民との連携による農空間保全

はしもと
橋本地区農空間保全協議会（貝塚市）

○橋本地区は、水利組合を中心に農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
○H27年度に橋本地区農空間保全協議会が設立され、多面的機能支払交付金の取り組みにより、自治会等、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られている。

【地区概要】	
取組面積	12.50ha　[田12.27ha　畑0.23ha]
農業用施設	開水路　3.9km　パイプライン　0km 農道　6km　ため池　4箇所
主な構成員	水利組合、実行組合、自治会
交付金	372千円

活動開始前の状況や課題

○ 農業従事者の高齢化や後継者の減少により、一部で遊休農地が発生したり、不法投棄ゴミが増加する等、今後の持続的な農地・農業用施設管理や営農・集落環境の悪化が懸念されていた。

取組内容

○ 交付金を活用して水路清掃活動や草刈り等の共同活動を強化し、農地・農業用施設の適正管理を図っている。

○ コスモスを植栽し、地元保育園（橋本保育所）や地域住民との交流や遊休農地の発生防止活動に取り組んでいる。

取組の効果

○ 交付金を活用した活動で地域共同活動がさらに盛んになり、遊休農地発生防止の機運の高まりにも寄与している。

○ コスモスの植栽を通じた地域交流・農村環境保全活動にも取り組み、地域ぐるみの農空間保全が図られている。

地域住民との連携による農空間保全

王子（おうじ）地区農空間保全協議会（貝塚市）

○王子地区は、水利組合を中心に農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
○H27年度に王子地区農空間保全協議会が設立され、多面的機能支払交付金の取り組みにより、自治会等、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られている。

【地区概要】	
取組面積	8.85ha　[田7.56ha　畑1.29ha]
農業用施設	開水路 3.8km　パイプライン 0km 農道 1.0km　ため池 1箇所
主な構成員	水利組合、実行組合、自治会、消防団
交付金	252千円

活動開始前の状況や課題

○ 農業従事者の高齢化や後継者の減少により、一部で遊休農地が発生したり、今後の持続的な農地・農業用施設管理や営農環境の悪化が懸念されていた。

○ 農業用施設の不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題となっていた

取組内容

○ 水路清掃活動や草刈りに加え、水路附帯施設の点検や補修等を交付金を活用して実施し、施設の適正管理および長寿命化を図っている。

○ コスモスの植栽による地域住民との交流活動に取り組んでいる。

取組の効果

○ 交付金を活用してきめ細やかな施設の点検・補修に取り組むことにより、適正な農業用施設の保全管理を実施。

○ コスモスの植栽等による農村環境保全活動に取り組み、地域ぐるみの農空間保全が図られている。

地域住民と改良区の連携による農空間保全

にしだいはら
西台原地区農空間保全協議会（阪南市）

○ 西台原地区は、昭和26年に土地改良区が設立され、水稲を中心に地域特産の水ナス、玉ネギ、キャベツなどが生産されている。当該地区は、8つのため池と井関川を水源とし、良好な生産環境が整っているが、後継者が不足しており、施設も老朽が目立っている。

○ H27年度に西台原地区農空間保全協議会が設立され、多面的機能支払交付金の取り組みにより、自治会等、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られている。

【地区概要】	
取組面積	30.50ha　[田27.48ha　畑3.02ha]
農業用施設	開水路25.1km　パイプライン0km 農道　0km　ため池　8箇所
主な構成員	自治会、土地改良区、JA
交付金	884千円

活動開始前の状況や課題

○ 高齢化や後継者不足により、ため池等の草刈りなど、維持活動に支障が生じている

○ 農空間保全のため、農業者と地域住民との協力体制の整備

○ 土地改良事業で整備された農業施設が少ないため、一部で老朽化が進み、その補修が負担となっている

取組内容

○ 農業用ため池及び、地区内の自治会財産のため池の草刈りなどの保全活動

○ 水路などの草刈りや軽微な補修

○ 地域の幼稚園と連携し、レンゲなどの植栽活動

○ 蓮池ハザードマップの作成、ワークショップへの参加

取組の効果

○ 農業者（土地改良区）と非農業者（自治会）の協力による地域環境の保全体制の構築

○ 老朽化した施設の軽微な補修による保全管理

○ 草刈りや泥上げなどの活動による保全管理

○ レンゲ等の植栽活動による地域との交流を通じた農村文化の継承

地域住民との連携による農空間保全

きたなか 北中地区農空間保全協議会（泉佐野市）

○北中地区は、市街化区域内に多くの農地を有しており、宅地と共存しながら営農を行ってきた。しかし、近年は後継者の減少や、宅地開発等により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。

○平成27年度に北中地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、地域資源の保全を図っている。

【地区概要】	
取組面積	30.00ha　[田30.00ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路15.0km　パイプライン0.2km 農道　1.5km　ため池　20箇所
主な構成員	土地改良区、小学校
交付金	900千円

活動開始前の状況や課題

○市街化区域内に多くの農地を有し、宅地と共存しながら営農を行ってきたが、後継者不足による担い手の減少により、地域資源の保全に係る負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。

○農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。

取組内容

○ため池や水路の草刈り、水路浚渫、農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の維持管理、長寿命化を図っている。

○学校教育と連携し、地域の小学校の子どもたちを対象に農作業や収穫体験に取り組んでいる。
大阪市内の小学校の農業体験を受け入れる等、都市との交流も進めている。

取組の効果

○土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。

○小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。

地域住民との連携による農空間保全

ひねの 日根野地区農空間保全協議会（泉佐野市）

○本地区は水資源に恵まれ、良質な農作物を生産してきたが、農業用施設の老朽化が進み、また後継者不足等担い手の減少による負担の増大によって、継続的な活動に支障が生じていた。

○平成２７年度に日根野地区農空間保全協議会を設立し、地域住民と連携した地域資源の保全管理に取り組んでいる。

【地区概要】	
取組面積	72.08ha　[田72.08ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路9.5km　パイプライン3km 農道　6.7km　ため池　11箇所
主な構成員	土地改良区、自治会
交付金	2,162千円

活動開始前の状況や課題

○地元農家による営農が行われていたが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の管理が課題

○　農業用施設の不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題

取組内容

○ため池や水路の草刈り、水路の補修、浚渫等を実施し、施設の維持管理、長寿命化に取り組んでいる。

○　コスモスを植栽し、地地域住民との交流や遊休農地の発生防止活動に取り組んでいる。

取組の効果

○土地改良区が中心となって各集落の状況を集約し、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り組むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。

○　コスモスの植栽を通じた地域交流・農村環境保全活動にも取り組み、地域ぐるみの農空間保全が図られている。

地域住民との連携による農空間保全

いなくらいけ
稲倉池地区農空間保全協議会（泉佐野市）

○稲倉池地区は、泉佐野市の北西部に位置し、市街化区域内に多くの農地を有している。稲倉池からパイプラインにより送水し、水稲の他にキャベツ、玉ねぎ、とうもろこし、水茄子等を栽培している。

○平成28年度に稲倉池地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、ため池や水路等の地域資源の保全を図っている。

【地区概要】	
取組面積	38.0ha　[田38.0ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路11.5km　パイプライン2.7km 農道　2.6km　ため池　6箇所
主な構成員	土地改良区、小学校
交付金	1,140千円

活動開始前の状況や課題

○市街化区域内に多くの農地を有しているため、宅地と共存しながら営農を行ってきたが、後継者不足による担い手の減少により、地域資源の保全に係る負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。

○農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。

取組内容

○ため池や水路の草刈り、水路浚渫、農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の維持管理、長寿命化を図っている。

○学校教育と連携し、地域の小学校（第一小学校）の子どもたちを対象に、農作業や収穫体験に取り組んでいる。

取組の効果

○土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。

○小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。

地域住民との連携による農空間保全

やすまつ
安松地区農空間保全協議会（泉佐野市）

○安松地区は、泉佐野市の南西部に位置する市街化区域を含む平坦部であり、水稲と共にキャベツ、玉ねぎ等の栽培が行われている。

○平成28年度に安松地区農空間保全協議会を設立し、土地改良区、近隣小学校が連携し、ため池や水路等の地域資源の保全を図っている。

【地区概要】	
取組面積	22.0ha　[田22.00ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路6.8km　パイプライン1km 農道　2.3km　ため池　3箇所
主な構成員	土地改良区、安松町会、小学校
交付金	660千円

活動開始前の状況や課題

○各地区の
水路等の農業用施設の維持管理に努めてきたが、後継者不足による高齢化等により負担が増大し、持続的な農地・農業用施設の管理が課題となっている。

○農業用施設の老朽化が進み、施設の補修・長寿命化が課題。

取組内容

○ため池や水路の草刈り、水路浚渫、農道補修等を交付金を活用して実施し、施設の維持管理、長寿命化を図っている。

○学校教育と連携し、地域の小学校（末広小学校）の子どもたちを対象に、農作業や収穫体験に取り組んでいる。

取組の効果

○土地改良区が中心となって施設の点検や補修を行い、計画的に農業用施設の保全管理が実施出来ている。

○小学校と連携し、子どもたちに作物を植え、育て、収穫するという一連の作業を体験、身近にある農空間の大切さを認識させることによって、地域住民の理解促進、また地域住民が交流する機会の創出に寄与している。

地域住民との連携による農空間保全　都市的地域

おおぎ
大木農空間保全協議会（泉佐野市）

○本地区は、市の山間部に位置し、水資源に恵まれた自然豊かな米作地域であるが、高齢化の進行と鳥獣被害の増加により、耕作放棄田が増え、良好な農村景観が失われつつあった。

○平成２９年度に大木農空間保全協議会を設立し、地域住民及び地区内小学校が連携した地域資源の保全管理に取り組んでいる。

【地区概要】	
取組面積	18ha　[田　18ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路16.7km　パイプライン0km 農道　3.6km　ため池　10箇所
主な構成員	土地改良区、町会、小学校
交付金	540千円

活動開始前の状況や課題

○市の山間部に位置していることから鳥獣被害が多発しており、耕作放棄地の拡大が懸念されている。

○各地区の水利役員が中心となって、水路等の農業施設の維持管理を行っているが、後継者不足・担い手の減少による高齢化が進んでいる。

取組内容

○町会・小学校と連携し、耕作放棄地を活用した農作物（さつまいも・大根）の収穫体験を実施

○地域ぐるみで水路の草刈りや浚渫を実施し、施設の維持管理、長寿命化に取り組んでいる。

取組の効果

○小学生及びその家族を対象とし、耕作放棄を活用した農作物の収穫体験を実施することで、良好な景観を維持することができ、農業理解を示せた。

○土地改良区が中心となって施設の点検を実施し、地域ぐるみで活動を行うことで、地域住民の理解促進、交流する機会の創出に寄与している。

地域住民との連携による農空間保全　都市的地域

かみのごう
上之郷地区農空間保全協議会（泉佐野市）

○本地区は、市の南西部に位置する水田地帯であり、地区内ではキャベツ・玉ねぎ・さといも主体の土地利用型農業を中心に、水ナス・ミニトマトなどの施設栽培もおこなわれている。

○平成３０年度に、地元町会と小学校、土地改良区で上之郷地区農空間保全協議会を設立し地域住民と連携した地域資源の保全管理を図っている。

【地区概要】	
取組面積	40.0ha　[田　40.0ha　畑　0.00ha]
農業用施設	開水路5.4km　パイプライン1.4km 農道　3.7km　ため池　8箇所
主な構成員	上之郷町会、上之郷小学校、 泉佐野市上之郷土地改良区
交付金	1,200千円

活動開始前の状況や課題

○大規模農家などの若い担い手に営農をお願いしている方もいるが、地区全体としては農業者の高齢化や担い手不足が課題

○農業用施設の不具合・老朽化が生じ、ゴミの撤去や施設の軽微な補修・長寿命化が課題

取組内容

○ため池や水路、農道の草刈や泥上げなどの保全活動

○町会と共同で水路の泥上げ・池堤の草刈りを実施

○地元小学校と連携し、さつま芋の植え付けから収穫までの体験活動を展開

取組の効果

○草刈や泥上げなどの活動による施設の適切な保全・維持管理

○町会と連携して維持管理活動を行うことにより、小学生や非農業者への普及・啓発が図られている

地域住民との連携による農空間保全

むつお
六尾農空間維持保全ふれあい促進会議（泉南市）

○六尾地区は、H20年度にほ場整備事業が完了し、地元農家を中心に、農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。

○H28年度に六尾農空間維持保全ふれあい促進会議が設立され、地域住民と連携した地域資源の保全管理が図られている。

【地区概要】	
取組面積	10.81ha　[田9.63ha　畑1.18ha]
農業用施設	開水路2.8km　パイプライン0km 農道　1.2km　ため池 7箇所
主な構成員	六尾区（区長等）
交付金	312千円

活動開始前の状況や課題

○ H20年度にほ場整備が完了し、地元農家による営農が行われていたが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の維持管理が課題である。

○ ほ場整備の完了から約8年が経過し、一部施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題である。

取組内容

○ 草刈りや水路の泥上げに加え、農道舗装の補修や水路附帯施設の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。

○ 府・市と連携した水田貯留対策のモデル地区として、大雨時の下流への浸水被害軽減や農地の保全のため、地区内の水田で水田貯留の実証実験に取り組んでいる。

取組の効果

○ 地元農家が中心となって、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り込むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。

○ 交付金の共同活動の強化や水田貯留等の取り組みを通じ、地域ぐるみでの農空間保全の機運が高まっている。
また、本地区における水田貯留の実証実験により、大雨時の浸水被害の軽減効果を示すことができれば、府下の他地区での取り組みにも繋がることも期待できる。

地域住民・学校教育との連携交流による農空間保全

おのさと
男里地区農空間保全協議会（泉南市）

○男里地区では、土地改良区を中心に農地や水路、農道等の保全管理を進めてきたが、近年、後継者の減少により、担い手の負担が増大し、継続的な活動に支障が生じていた。
○H28年度に土地改良区、近隣小学校により男里地区農空間保全協議会が設立され地域住民と連携した地域資源の保全管理を行っている。

【地区概要】	
取組面積	11.04ha　[田11.04ha　畑0.00ha]
農業用施設	開水路4.5km　パイプライン0km 農道　0.7km　ため池　2箇所
主な構成員	土地改良区、泉南市立雄信小学校 男里区
交付金	331千円

活動開始前の状況や課題

○ 双子池を水源とし水稲を中心にキャベツ、里芋などの作付を組み合わせた農業がおこなわれている地域であるが、一部で遊休農地が発生したり、後継者の不足、担い手の減少等、今後の持続的な農地・農業用施設の維持管理が課題である。

○ 地区内の一部農業用施設で不具合・老朽化が生じ、施設の軽微な補修・長寿命化が課題である。

取組内容

○ 草刈りや水路の泥上げに加え、農道舗装の補修や水路附帯施設やため池の補修等を交付金を活用して実施し、施設の長寿命化を図っている。

○ 協議会構成員でもある稲作等体験支援隊により地元小学校（雄信小学校）の年間を通じた農業体験等の交流活動にも積極的に取り組んでいる。

取組の効果

○ 土地改良区が中心となって、きめ細やかな施設の軽微な補修に取り込むことにより、計画的に農業用施設の保全管理を実施。

○ 雄信小学校の生徒による農業体験を地域農家の指導により年間通じて実施し、子どもの地域農業への理解促進、交流が図られている。